宇都宮市教育センター **かすたネット通信** 第１２号
令和４年１０月２８日発行
発行者　所長　金子　渉

別室対応の送り迎えは笑顔で

子どもが学級から離れて個別／少人数指導を受ける場面がいくつかあります。

・特別支援学級在籍の子が，①交流学級で授業を受けたり活動したりするとき
・通常の学級在籍の子が，②かがやきルーム，③通級指導教室，
　　④日本語指導教室，⑤出前かすた　で指導を受けるとき
・⑥気持ちのリセット，クールダウンのために別室で過ごすとき

これらの指導を受けに子どもが自教室から出かけるとき，そして，終わって自教室に戻ってきたときに，**担任がどんな表情，態度で送り迎えをしているかが，子どもの情緒面や指導の成果に大きな影響を与えます。**

にこやかな表情で「行ってらっしゃい」「おかえりなさい」と声をかける担任と，そうでない担任（声かけがない，どこかチクチク言葉，無表情もしくは険しい表情など）の姿を子ども目線で想像してみれば，子どもの気持ちが理解できると思います。

「笑顔での送り迎え」は、担任によってはなかなか難しいことのようです。特に，日ごろ迷惑行為が絶えず，その子の存在によって授業や学級経営がスムーズでないような場合，担任の中に慢性的な不快感や，「この子さえいなければ…」といった思いが横たわっているようなときは，どうしても表情が固くなるのでしょう。

別室での指導者に対する感情も影響します。担任として普段大変な思いをしているのに，個別指導では機嫌よく頑張っているとの報告は，いかにも＜いいとこ取り＞されているような気がして腑に落ちないのも心情的には分かる気がします。

「個別（少人数）だからできるのよね。」「個別（少人数）ではできたって，学級では全然だめ。」「やっぱりこの子には個別（少人数）指導が適している。」・・・

その通りかも知れませんが，そうした考えに囚われていると，行動の改善や学力の向上，情緒の安定に向けてチームで連携して支援していくという基本方針が，最大のキーパーソンである担任サイドから崩されていくことになってしまいます。

お互い様の精神で教師自身が心のキャパを広げること，言葉と表情を常に意識すること・・・教師として成長していく上で，越えなければならない壁であるように思います。

担当　学校生活適応支援アドバイザー（飯山・大瀧）
TEL　６３９－４３９２